

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90分

## 解答形式

記述, 計算, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴

問題文の読解力と推察力が必要な問題が多く出題された。

## その他トピックス

I 反応式中の  $I_2$  を  $I_3^-$  として書かせていた。

III 教科書に記載のない反応ではあるが、前後関係から判断できる問題であった。

IV プロリンの構造からニンヒドリン反応しにくいことに気づけば解きやすい問題であった。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算 選択	電気分解, 酸化還元滴定, 電離平衡	化学	硫酸銅(II)水溶液の電気分解を題材とし, 電気分解効率をヨウ素滴定により求める問題である。	やや易
II	記述 計算 選択	熱化学, 電離平衡	化学	硫酸の中和反応から硫酸の中和熱と硫酸水素イオンの電離反応の反応熱を考察する問題である。	難
III	記述 計算	(a) 芳香族化合物の構造決定 (b) バニリンの合成	化学	(a) リグニンから得られる分解生成物の構造決定に関する問題である。 (b) バニリンの合成経路を推察する問題である。反応条件や生成物から化合物を推察しなければならなかった。	(a) 標準 (b) 標準
IV	記述 論述	(a) アスパルテームの構造決定 (b) ペプチド分析	化学	(a) アスパルテームの合成経路を考察する問題である。 (b) ラクタムを構成単位として含むアミノ酸の配列を考察する問題である。	(a) 標準 (b) 標準

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学平衡に関する学習は深めておくこと。
3. 論述問題の対策には、平素から書く練習をしておくこと。
4. 実験に対する探究的な姿勢も養っておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。